



仏教保育

7
July

伝えよう いのち 生命の尊さ ほとけの心

第 4 回社員総会／平成 27 年度第 1 回仏教保育研修会

平成 27 年 6 月 1 日／大本山増上寺・光摂殿

「ごじゅろの教育」の担い手として全議案を採択！

公益社団法人日本仏教保育協会（緑谷一雄理事長）は 6 月 1 日、大本山増上寺光摂殿において第 4 回社員総会並びに平成 27 年度第 1 回仏教保育研修会を開催しました。

ご高承の通り、4 月 1 日に「子ども・子育て支援新制度」はスタートしました。しかし、幼稚園から認定こども園への移行は 3 割程度にとどまり、逆に認定こども園の 1 割ほどが認定返上の意思を示すなど、波乱の幕開けとなりました。スタートして 2 カ月余を経過した今も待機児童減少の効果は少なく、自治体では幼稚園の施設に受け入れを要請しているのが現状です。制度がどのように変容されようとも、仏教を基とする教育・保育を伝道していく指導者として「ほとけの子」を育てる理念は変わるはずはなく、上程議案のすべてを異議なく採択されました。



司会・進行を務める五島満事務局長が開会を告げ、緑谷一雄理事長の主唱で三歸依文を斉唱。続いて緑谷理事長が挨拶。次いで五島事務局長より出席・委任は定足数を満たしており成立する旨を述べてから、定款第 26 条に則り緑谷理事長が議長に

- 就任し議事に入りました。
- 上程議案は次の通り。
- 第 1 号議案 平成 26 年度 事業報告
- 第 2 号議案 平成 26 年度 収支決算・監査報告
- 第 3 号議案 平成 27 年度 事業計画（案）
- 第 4 号議案 平成 27 年度 収支予算（案）
- 第 5 号議案 役員改選
- 第 6 号議案 その他
- 第 1 号議案「平成 26 年度事業報告」については、高山久照

- 総務担当常任理事が所管する(1) 生命尊重の保育推進を図る国民運動の展開、(6) 関係団体との連絡提携、(8) 国際交流、社会貢献の実施、(9) 奨励事業等について別紙資料の記載に基づいて報告しました。
- 続いて、高輪真澄 研究担当常任理事が(2) 調査研究、(3) 現職教育、(4) 指導者養成、について別紙資料記載に添って報告しました。
- 続く古屋吉雄 事業担当常任理事から(5) 編集・刊行、につ

いて資料に基づきながら経緯を報告しました。

次に、(7) 保育制度対策の活動強化については、荻野順雄 制度対策担当常任理事が所用で欠席のため古屋常任理事から、今年 1 月 20 日に開催したザ・プリンスパークタワー東京におけるの新年懇親会で、振興の支援を約されたこと、当時の模様を話され、仏教保育振興国会議員懇話会との連携の現状を述べた後、つい先日、平成 24 年の第 46 回衆議院議員選挙で初当選した広島県選出の小林史明議員が仏教保育振興国会議員懇話会に入会し、仏教保育の振興を支援したいとお申し入れがあったことを報告しました。

最後に五島事務局長より、(10) その他必要な事業、並びに◇ 会議、について資料に記載の通り実施したことを報告がありました。

第 2 号議案「平成 26 年度収支決算・監査報告」については、所管する麻布恒子 財務担当常任理事から資料に沿って詳細説明が行われ、それを受けて金子



聡秀監事から「業務監査については法令、定款および規則等に
従い適正に運営されていると認め
めます。会計監査についても、
貸借対照表および正味財産増減
計算書、財産目録および付属明
細書は、法人の財産および損益
の状況を正しく示しているもの
と認めます」と報告がありま
した。

第3号議案「平成27年度事業
計画(案)」については、高山
総務担当常任理事から(1)生命
尊重の保育推進を図る国民運動
の展開、(6)関係団体との連絡
提携、(8)国際交流、社会貢献
の実践、等について別紙資料に
添って上程した。なお、国際交
流、社会貢献については27年度
においても例年通り事業の継続
を図ることを基本とした、と上
程しました。

続いて、高輪研究担当常任理
事が、(2)調査研究、(3)現職教
育、(4)指導者養成、について
は資料に基づいて説明し上程。
保育の質が問われるなかにあっ
て中央講習会等、研修会の内容
等では仏教保育ならではの更なる
充実と受講者の拡充に向けて
いきたいと決意が述べられまし
た。また、6月27日には関西地
区研修会が開催されるので、ぜ
ひご参加願いたいと呼びかけら
れました。

次いで、樋口威道 事業担当

部長から(5)編集・刊行につい
て、機関紙「仏教保育」「月刊
・仏教保育カリキュラム」をはじ
め、「ほとけの子」「こどものく
に」など、各編集委員会でス
タッフ一同企画編集に鋭意取り
組んでいくとの決意を表明しま
した。また、「月刊仏教保育カ
リキュラム」については、購読
部数が減少傾向にある現状だが
講師陣を更に拡大・強化し、毎
月の年齢別の内容や教師の援
助・指導法等の充実に力を入れ
ていきたい。購読園拡大に一層
のご協力をいただきたいと要請
しました。

続いて、(7)保育制度対策の
荻野保育対策担当常任理事が所
用で欠席のため、古屋事業担当
常任理事から、政策的な進展は
これまであまりなかったが、4
月から施行された新制度への対
応等も含め、いろいろご助言等
をいただきながら「仏教保育振
興国會議員懇話会」との連携を
深めていき、スムーズなコミュ
ニケーションを保ちながら、活
動を強めて行きたいと説明し、
上程しました。

最後に、五島事務局長が、(9)
奨励事業、(10)その他必要な事
業並びに、◇会議、については
資料に記載された予定で実施し
たい旨、上程しました。

第4号議案は、財務担当の麻
布常任理事から、基本的には前

年度決算額を勘案しつつ、事業
の速やかな展開に即した予算を
構築したことを述べてから資料
に沿って詳細に説明しました。

第3号議案・第4号議案につい
て議長が賛否を諮ったところ満
場一致で承認・可決されました。

第5号議案である役員改選に
ついては五島事務局長が資料に
添付された平成27～28年度役員
候補者一覧(案)に基づいて説
明し、議長が賛否を諮ったとこ
ろ、満場一致で承認可決されま
した。また、五島事務局長が理
事長等役員組織については社員
総会終了後に開催される、「第
10回理事会」にて決議する旨、
説明しました。

第6号議案「その他」は、五
島事務局長から、総会の後の懇
親会場で恒例の「仏教保育功
賞」を、日仏保・八木季生名誉
会長から授与されることになっ
ていたが体調が優れず参加でき
なくなつたことを報告し、日野
昭文・浦田裕人・安井昭雄の各
先生を紹介すると祝福の拍手が
送られました。最後に壇上の仏
旗に向かって合掌・礼拝をし
て、第4回社員総会は閉会しま
した。

休憩の後、講師の塚寄智志先
生による「寺院を取り巻く環境
変化と検討課題」のテーマで「仏
教保育研修会」が行われました
(要旨は6～7P)。

平成27・28年度
●理事・監事一覧

北海道	野村 定弘	まや幼
青森	青山 晃淳	明照保
宮城	鎌田 文恵	おたま幼
福島	吉岡 棟憲	徳光三幼
茨城	古屋 吉雄	共生保
茨城	金田 進徳	取手保
栃木	小林 研介	吞龍幼
群馬	稲村 博道	三宝幼
埼玉	丹羽 義昭	あずま幼
千葉	緑谷 一雄	みどり幼
千葉	高木 正尊	成田保
千葉	田中恵美子	船橋幼
東京	荻野 順雄	花川戸保
東京	高輪 真澄	光輪幼
東京	麻布 恒子	麻布山幼
東京	高山 久照	寿福寺幼
東京	安藤 文隆	金の峯幼
神奈川	杉本 智研	檜れけ幼
愛知	神野 哲州	天白保
長野	金子 英滋	パドマ幼
新潟	今湊 良敬	新潟中央幼
福井	福澤 幹也	小鳩幼
滋賀	小川 良紘	るびに保
三重	加藤 一實	長木の浦保
京都	日野 昭文	松尾幼
京都	上原 雅明	小野幼
京都	浦田 裕人	月かげ保
大阪	行友 伸二	淡路幼
兵庫	井藤 圭端	太寺保
広島	西村 英昭	呉あそか幼
香川	三浦 教尚	西光寺保
福岡	中嶋 顕眞	松原保
(監事)	堪山 泰字	本町の園
(監事)	金子 聡秀	永安寺園幼
(監事)	白井健二郎	自許事務所

第10回理事会

社員総会終了後、大本山増上
寺光摂殿の会議室において第10
回理事会が開催されました。
定刻となり、司会の五島事務
局長が定款第38条に定める定足
数を充たしているため理事会が
成立していることを確認し、議
長に緑谷一雄理事を推薦し賛否
を諮ったところ、満場一致で承
認・可決され議事に入りました。
議案は次の通りです。

- (1) 理事長選任について
- (2) 副理事長選任について
- (3) 常任理事選任について

はじめに、緑谷理事より先に
開催された第4回社員総会によ
り平成27年・28年度の役員が選
任された旨報告があり議事に入
りました。

第1号議案については、定款
第12条により理事長の選定が行
われた。事務局より別紙資料
「平成27～28年度役員組織(案)」
が提示され、緑谷一雄理事を理
事長として推薦する案内があり
ました。審議の結果、理事長に
緑谷一雄理事が就任することを
満場一致で承認されました。
次いで、第2号議案について
定款第12条により副理事長の選
定が行われた。別紙資料「平成
27～28年度役員組織(案)」に



より副理事長に高山久照理事、日野昭文理事、神野哲州理事、吉岡棟憲理事を推薦する案内があり、審議の結果満場一致で承認されました。

続いて、第3号議案について定款第12条により常任理事の選定が行われ、別紙資料「平成27(28年度役員組織(案)」により荻野順雄理事、古屋吉雄理事、高輪真澄理事、麻布恒子理事、高木正尊理事を推薦する案内があり、審議の結果、満場一致で承認されました。

この後、高山副理事長から「微力ではございますが、諸先生のご協力をいただきながら責務を

◆ 理事長

緑谷 一雄 みどり幼(千葉)

◆ 副理事長

高山 久照 寿福寺幼(東京)
神野 哲州 天白保(愛知)
日野 昭文 松尾幼(京都)
吉岡 棟憲 舊ルンビエ幼(福島)

◆ 常任理事

荻野 順雄 花川戸保(東京)
古屋 吉雄 共生保(茨城)
高輪 真澄 光輪幼(東京)
麻布 恒子 麻布山幼(東京)
高木 正尊 成田保(千葉)

果たしたい」。吉岡副理事長からは「伝統を誇る名誉ある大会を福島で開催できることを誇りに思います。諸先生のご指導いただきながら、スタッフ一同頑張ります」と決意が述べられました。

仏教保育功労賞
の日野先生



仏教保育功労賞
の浦田先生



仏教保育功労賞
の安井先生(代理)
杉本育美先生)

「懇親会」

増上寺に隣接するザ・プリンスパークタワー東京のスカイバンケットで行われました。その席上で3名の先生に緑谷理事長から「仏教保育功労賞」が贈られました(8P)。その後、安井覚明先生の乾杯の音頭で会は一気に盛り上がり、夜景を楽しみながら懇親を深めました。

乾杯!! を安井覚明先生



平成27・28年度
参務・運営審議委員一覧

◆ 参務

岩堀 法道 平泉幼(茨城)
小林 龍雄 呑龍幼(栃木)
栗原 信明 国谷幼(栃木)
高山 照襄 千葉文化幼(千葉)
福井 豊信 明福等ルンビエ学園(東京)
小林 昭彦 言問幼(東京)
小俣 昌道 ぷりすくる西五反田(東京)
大島 文夫 舍人幼(東京)
関岡 俊二 多摩みゆき幼(東京)
安井 覚明 青葉幼(神奈川)
長谷川正孝 荻野保(愛知)
遠藤 友彦 川中保(愛知)
三浦 俊彦 城北幼(愛知)
横井 恭一 上京保(京都)
神谷 周道 北港学園保(大阪)

● 運営審議委員

宮川 恵秀 双葉保(北海道)
畑 光寿 小樽高田幼(北海道)
近藤千重子 厚別幼(北海道)
斎藤 学成 多賀台保(青森)
鎌田 俊昭 八幡花園幼(宮城)
妹川 真澄 もみじ幼(茨城)
橋本 幸雄 栄 幼(茨城)
黒田 光泰 ひかり幼(栃木)
荒居 養雄 育成館幼(栃木)
和田 辨孝 中川幼(群馬)
後藤 光純 北川口幼(埼玉)
石田 隆博 わせた幼(埼玉)
田口 順一 共生幼(埼玉)
高山 照駿 千葉文化幼(千葉)

清水 博雅 日野わかき幼(東京)
友松 浩志 神田寺幼(東京)
五島 満 銀の鈴幼(東京)
大澤 聖隆 世尊院幼(東京)
福井 徹人 ルンビエ保(東京)
大島 康裕 舍人幼(東京)
戸田 了達 妙福寺保(東京)
秋山 秀阿 光徳保(東京)
堀江 秀典 西小松川保(東京)
加藤 昌康 淡島幼(東京)
樋口 威道 今泉保(東京)
桑田 則行 最勝寺みのり保(東京)
小林 昭寛 言問幼(東京)
角田 定弘 ルンビエ幼(神奈川)
楠 雅翔 ばらの幼(神奈川)
高田 道雄 マナ保(愛知)
相羽 孝親 津島幼(愛知)
海野 英順 吉田保(長野)
海野 知現 出雲崎保(新潟)
荒川 慈文 新田塚幼(福井)
山本美智子 ふたば保(滋賀)
栗真 恵光 高田保(三重)
山羽 学天 錦陵幼(京都)
橋川 昌治 ときわ幼(京都)
戸津川聖信 随林寺保(京都)
吉澤 浩則 小松谷保(京都)
久松 幸生 西若宮保(大阪)
平林 正見 ひかり幼(大阪)
山下 正和 粟生幼(大阪)
近藤 利弘 禅昌寺幼(兵庫)
中川 正興 宝地院保(兵庫)
本田 行信 まるに保(島根)
平原 弘史 宝徳幼(広島)
鎌田 英紀 円座百華保(香川)
後根 泰定 藤田保(福岡)
笠 信曉 筑紫女学園太学(福岡)
短期大学部附属幼



平成26年度 事業報告

平成26年4月1日
～平成27年3月31日

基本方針の生命尊重の
保育確立と心の教育の推進

1. 生命尊重の保育推進
 2. 活力ある日仏保
 3. 魅力ある日仏保
 4. 国際交流・社会貢献のできる日仏保
- を重点に次の事業を行った。

1. 生命尊重の保育推進を図る国民運動の展開

- (1) 生命尊重の保育推進のための実践、普及活動(募金運動)
昭和58年より始めた「いかけいのち」の募金運動では、日本赤十字社、ユニセフ等に浄財を贈呈。22年度は宮崎県(口蹄疫)、パキスタン(洪水)、23年度、24年度は東日本大震災の被害、被災に対し義援金を送付。25年度はフィリピン(台風)に救済金を送付した。現在までの寄託総額は約1億円にのぼる。協賛園には感謝状・ポスターを配布。園児にはシール、保護者には「日仏保協会の活動について」を配布。
- (2) 財政確立のための振興活動
1. 支部及び未組織支部で研修会及び組織強化会議を開催。また、その他のブロックもアップローチを図る。
2. 広告・寄付金の増大を図る。
3. 生命尊重の集い等の推進
4月 京都幼支部
「花まつり園児大会」
5月 宮城支部
「第54回こどもはなまつり」

11月 大阪支部「絵画展」
於、イズミティ21
於、海遊館マーケットプレイス

12月 東京支部「釈尊成道を祝う幼児と母のつどい」
於、よみうりホール
神奈川支部「成道会の集い」
於、ホテル横浜カマーテン

12月 京都幼支部「成道会」
於、東本願寺高倉会館
埼玉支部「第30回佛教幼児絵画展」
於、さいたま市文化センター展示室

1月 愛知支部
「第47回仏教保育絵画展」
於、名古屋市民ギャラリー展示室
京都幼支部「涅槃会」
於、永観堂禅林寺

2月 愛知支部「第5回三河地区仏教保育絵画展」
於、豊川市催事場
2月 生命尊重の保育に関する参考資料の編集発行
「改訂わかりやすい仏教保育総論」普及促進

2. 調査・研究

(1) 仏教保育にかかわる調査・研究
1. 大会の報告集である「大会紀要」の作成につき、京都支部との協議を行った。
2. 「支部講習会等特別助成金制度に基づき、各地区での講習会への助言と、各県より要請された講習会等に本部よりの講師の派遣を行った。
3. 本協会編「改訂わかりやすい仏教保育総論(平成16年2月初版・平成22年11月改訂チャイルド本社刊)」は、全国の支部・

養成機関でテキストとして活用されている。
4. 養成機関連絡協議会を2月に開催し、研究協議を行った。

(2) 仏教保育研究所

仏教保育史の資料の蒐集、整理を続行
(3) 仏教教育研究会
仏教保育の理念と実践の研究を行う。仏教保育者・学生等が対象。

3. 現職教育

(1) 第33回全国仏教保育京都大会
平成26年7月26日・27日に京都市ウエスティン都ホテル京都・京都華頂大学・華頂短期大学を会場に記念式典・記念講演・16の分科会を実施した。参加者約1千名。機関紙平成26年9月号第605号に掲載
(2) 中央講習会
ア. 第82回夏期仏教保育講習会
7月22日・23日の両日、東京増上寺光猷殿講堂において東京仏教保育協会の運営実施により、全国から約200名の参加を得て開催。講師には建中寺幼稚園園長・村上真瑞先生、絵本作家・藤本ともひろ先生、子ども家庭フォーラム代表・富田富士也先生、臨床心理士・佐伯直子先生、玉川大学准教授・田澤里喜先生、十文字学園女子大学教授・平田智久先生等を迎えて、仏教保育の講義並びに保育に関係する色々な内容の講義と実技を交えての2日間の講習会を終えた。機関紙平成26年8月号第604号に掲載
イ. 第59回関西地区仏教保育研修会
第59回関西地区仏教保育研修会
は、全国仏教保育京都大会と合同開催となった。

(3) 支部講習会・ゼミナール等の開催促進
平成26年度各支部講習会・ゼミナール等の実施状況
3月31日 東京支部
「第49回教諭・保育士研修会」
於、柴又帝釈天附属ルンビニ幼稚園 100名参加
4月19日 長野支部
「総会・記念講演」於、善光寺事務局講堂 100名参加
5月17日 愛知支部
「新任教諭・保育士研修会」
於、東別院 68名参加
5月21日 埼玉支部
「春季研修会」於、埼玉会館
5月22日 香川支部
「仏教保育講座」於、サン・イレブン高松 39名参加
5月24日 長野支部
「新任者研修会」
於、雷鳥保育園 24名参加
5月31日 三重支部
「総会と講演会」
於、高田山本宗務院
6・7・9・10・11月
東京支部「東仏保ゼミナール」
5回開催 於、飯田橋セントラルプラザ 各52名参加
6・11月 東京支部
「東仏保研究ゼミナール(施設見学)」2回開催 ぼぜんじ幼稚園/妙福寺保育園 13名/16名参加
6月7日 栃木支部
「新人保育士・教員研修会」
於、宇都宮・恵光幼稚園 54名参加
6月7日 栃木支部
「園長・理事長研修会」於、宇都宮・恵光幼稚園 15名参加
6月14日 長野支部
「講演会」於、善光寺事務局講堂 100名参加

6月14日 京都支部
「第1回職員研修会」
於、大本山東福寺 33名参加
7月1日 兵庫支部
「総会研修会」
於、ラッセホール 34名参加
7月31日 宮城支部
「宮城県仏教保育夏季研修会」
於、聖和学園短期大学 120名参加
8月2日 北海道支部
「第20回仏教保育講座」
於、札幌市東本願寺別院・大谷ホール 83名参加
8月29日 大阪支部
「夏期職員研修会」
於、津村別院 50名参加
9月6日 愛知支部
「2学期を迎えるの保育者研修会」
於、お東幼稚園 47名参加
10月24日 愛知支部
「絵画展事前研修会」
於、建中寺幼稚園
11月8日 京都支部
「第2回職員研修会」
於、月かげ保育園 14名参加
11月8日 長野支部
「新任者研修会」
於、ルンビニ幼稚園 48名参加
11月26・27日 栃木支部
「園長・理事長研修会」
於、あさやホテル 13名参加
12月9日 群馬支部
「公開保育」於、榛名愛育幼稚園 20名参加
12月22・23日 京都幼支部
「泊研修会」於、善通寺 31名参加
1月17日 長野支部
「園内研修のまとめ発表」於、善光寺事務局講堂 100名参加
1月29・30日 宮城支部
「研修会」於、秋保温泉ホテル



- きよ水 20名参加
- 2月21日 香川支部
「冬期仏教保育講座」於、サン・イレブン高松 28名参加
- 3月23日 大阪支部
「年度末職員研修会」於、津村別院 33名参加
- 3月27日 福岡支部
「総会・研修会」於、筑紫女学園中学・高等学校 6名参加
- 4. 指導者養成
 - (1) 平成26年度第1回仏教保育研修会 平成26年5月13日 於、増上寺・光摂殿
講師 光明幼稚園園長・田中雅道先生
 - テーマ「教育の視点から見た新制度の課題」 70名参加
 - 機関紙平成26年6月号第602号に掲載
 - (2) 平成26年度第2回仏教保育研究会 平成27年1月20日 於、増上寺・光摂殿
講師 白百合女子大学非常勤講師 国吉 栄先生
 - テーマ「わが国における近代保育の始まり」 70名参加
 - 機関紙平成27年2月号第610号に掲載
 - (3) 養成機関連絡協議会
平成27年2月23日 於、芝パークホテル
テーマ「保育新制度と仏教保育」参加養成校8校・9名
 - 機関紙平成27年3月号第611号に掲載
- 5. 編集・刊行
 - (1) 機関紙「仏教保育」
月刊 園長・教職員対象
平成26年4月1日発行第600号より平成27年3月1日発行第

- 611号まで、時宜に適した日仏保に関連した事象を取り上げ紙面の充実を図った。
- 編集委員会は月1回。於、日仏保事務所
- (2) 「仏教保育カリキュラム」月刊 教職員対象
企画会議
年1回 於、日仏保事務所
編集会議
月1回 於、日仏保事務所
校正委員会 月1回
於、エフ・コーポレーション
- (3) 「ほとけの子」月刊 保護者対象
仏さまのみ教えを通して、親子共々「心の豊かさ」のある人としての成長を願い編集し、紙面の充実を図る。
企画会議
年1回 於、日仏保事務所
編集会議
年5回 於、日仏保事務所
- (4) 仏教保育教材の編集・監修
月刊 「子どものくに」ひまわり版
月刊 年長児対象
編集会議 年3回開催
於、すずき出版
☆「わたしの記録」卒園児に
対して配布
- 2. 「子どものくに」チュウリツ
版 月刊 年中児対象
企画会議 年4回 編集会議
年3回開催 於、すずき出版
- 3. 「子どものくに」たんぼぼ版
月刊 年少児対象
編集会議 年2回開催
於、日仏保事務所
- 4. 出席カード
編集会議 年1回開催
於、フレール館
なつのえほん
編集会議 年1回開催
於、すずき出版

- 6. ともだちいっぱいうれしいな
(すずき出版) 新入園児対象
- 7. その他必要な教材
- (5) 「いかせいのち」
日仏保写真ニュース発行
- (6) 「日仏保ポスター」未発行
- 6. 関係団体との連絡提携
 - (1) 仏教各団体・他宗教団体との連絡
1. 公益財団法人全日本仏教会、公益財団法人国際仏教興隆協会への役員派遣。公益財団法人全日本仏教婦人連盟、公益財団法人仏教伝道協会との連絡提携。
 - 2. 日本宗教保育事業協議会(仏教、神道、キリスト教)の振興
 - (2) 各私立、各宗保育団体との連絡
1. 各私立全国研修会及び会議へ理事長、副理事長、本部の中心メンバーが参加、連絡を図る
 - 2. 各宗保連の研修会、全国講習会にも同様に出席、連絡を図る
 - (3) 地方組織との連携強化及び育成指導
1. 支部講習会等特別助成金交付制度を適用し、以下の支部に配布
①栃木 ②東京 ③兵庫
 - 2. 支部の会議及び事業に本部より訪問し連絡を強化
 - (4) 保育関係企業との連絡
1. 各企業継続事業の推進及び新規事業も模索(すずき出版、宣協社、フレール館、チャイルド本社、ひかりのくに、世界文化社、学研教育みらい、若越エフ・コーポレーション、等)
 - 2. 新年懇親会にて懇談
- 7. 保育制度対策の活動強化
 - (1) 幼保加盟施設の運営・経営の調査
幼保加盟施設の各地区の現状分析
 - (2) 保育制度研究会(全国制度対策委員会)

- (3) 仏教保育振興国会議員懇話会との連絡強化 平成27年1月20日ザ・プリンスパークタワー東京にて新年懇親会開催
機関紙平成27年2月号第610号に掲載
- 8. 国際交流、社会貢献の実践
 - (1) 国際交流等と社会貢献(災害救援を含む)を積極的に推進
インド菩提樹学園の育成協力
 - ア. 菩提樹学園訪問と仏跡参拝団派遣
菩提樹学園運営委員会の開催
平成26年11月6日
於、日仏保事務所
 - 日本寺開山40周年・光明施療院30周年記念法要並びに菩提樹学園訪問
平成26年11月18日〜25日
於、インド・ブダガヤ
 - イ. 運営基金の管理運用
 - ウ. 運営及び育成指導への協力
 - (3) オメツ(OMEPE)に協力
- 9. 奨励事業
 - (1) 日本仏教保育協会賞
本年度養成機関卒業生 平成26年度32名/30校
 - (2) 仏教保育功労賞
仏教保育実践に功労のあった個人で、適任者がいる年度のみ授与
第20回受賞者2名 第3回社員総会懇親会席上にて表彰
遠藤友彦先生(愛知 川中保育園)
小俣昌道先生(東京 行慶寺ルンビニ幼稚園)
 - (3) 第18回持田賞 ※該当者なし
第13回古屋賞 大震災を乗り越え、仏教保育を推進したとして、宮城支部・福島支部に対し、第33回全国仏教保育京都大会開会式席上にて表彰。

- (5) 第7回仏教保育精励賞
永年にわたり保育現場において仏教保育に功労のあった保育者を全国仏教保育京都大会開会式席上にて表彰。受賞者2名
- 10. その他必要な事業
 - (1) 会員加入促進運動
 - (2) 将来検討委員会の開催(未実施)
 - (3) 奉祝花まつり・暑中見舞広告・成道会等の協賛広告(協賛広告を例年通り継続)
 - (4) 各種出版物、教材の開発・販売推進(重点教材・出版物「子どものくに」「ほとけの子」)
 - (5) ホームページの充実
 - (6) 社員名簿配布
 - (7) その他
「仏教保育なるほど12か月」「改訂わかりやすい仏教保育総論」「ポップアップ絵本おしゃやさま」「新選ジャーナル絵本全5巻」の普及促進
- ◇ 会議
 - (1) 4月28日 平成25年度業務・経理監査会 於、日仏保事務所
 - (2) 5月13日 第7回理事会・第5回運営審議委員会・第3回社員総会 平成26年度第1回仏教保育研修会 於、増上寺・光摂殿
 - 機関紙平成26年6月号第602号に掲載
 - (3) 1月20日 第8回理事会・第6回運営審議委員会 平成26年度第2回仏教保育研修会 於、増上寺・光摂殿
 - 機関紙平成27年2月号第610号に掲載
 - (4) 常任理事会・事務局会議
年11回開催 於、日仏保事務所
以上



平成27年度 第1回仏教保育研修会

平成27年6月1日 / 大本山増上寺光摂殿

テーマ

「寺院を取り巻く環境変化と検討課題」

地域コミュニティにおける寺院のあり方



【講師】塚寄 智志 先生

(野村證券(株)金融公共公益法人部公共公益法人課課長)

「高いところから失礼します。皆さんは私の肩書きを聞かれて株とか債権などの話をするのではないかと、そう思われた方も大勢いらっしゃるのではないかと。残念ながら、そういう話は一切しません(笑)。私は野村證券では特殊な部署に所属し、中でも宗教法人に

関係する方々に寺院の管理運営などのお手伝いするという特殊な立場にいる者でございます。本日は全国からお集まりとお聞きしましたので、地方における動向・地域のコミュニティなどにも多少触れながら、話を進めてまいりたいと思っております。塚寄先生は冒頭ご述べられて本題に入られました。以下、概要を報告します。

実は私、生まれも育ちも福岡です。私の父は福岡のあるお

寺の責任役員をしながら、そこのお寺が運営している保育園の理事も務めていました。そういう環境の中で育ったものですが、僧籍を持つているわけではありませんが、皆さんに近い立場でお話ができるのではないかと思っています。

皆さんのお寺と、そのお寺が運営する幼稚園・保育園が直面する一番の問題は地域における人口の減少、檀信徒の減少、子どもの減少。それに比例して運営上の困難は大きくなるばかり、というのが現状だと思えます。すべての現況は人口減にあると考えておられると思います。しかし、人口が減ること自体が悪い、100%イコールだとは、私は思っています。それを前提条件としてお聞きいただきたい。

■宗教法人が直面する環境の変化について

●人口動態の変化(人口減少)

- 少子高齢化・人の移動・人口の偏在化・限界集落の増加
- 檀信徒・門徒との関係変化(接点が減少することにより関係が希薄化している)
- 祭祀儀礼のあり方・考え方・接し方の変化(葬儀・法要の減少・規模縮小・直葬)
- 家族形態の変化(核家族から個へ・継承者が存在しなくなっている)
- 地元コミュニティとの関係の変化(閉鎖性・孤立化)
- 法人としての管理・運営(組織として統治・統制できているか、中長期的運営計画は策定されているか)
- 記念行事や大規模修繕・修復など、将来の支出に対する不安(リスクマネジメント)等々。

人口問題一つ見ても、残念ながら人口は減ります。少子高齢化は避けられません。人口の移動も激しくなっています。

1700年から2100年までの日本の人口動態のデータを

見ますと、例えば今から25年後の2040年における福岡県の人口は、およそ半分は減少する予想です。これは福岡県だけに非ず、大半の地域が同じ現象となります。地域によっては消滅する自治体も出てくるのではないかと思っています。

東京都民は1300万人と言われていますが、大都市といえども何年か後には人口減少に入りまします。1700年当時、2700万人だった日本の人口が2000年には1億2700万人になりました。しかも1900年から2000年までの100年間で一気に3倍に増えていきます。戦時中の特殊な要因は別として、ずっと増え続ける中で私たちは生きてきました。皆さんが運営してこられた幼稚園・保育園も人口が増えていく中での成功したモデルなのです。そのビジネスモデルが、今後人口が一気に減少していけば完全に崩壊するのではないかと私は考えます。今の1億2700万人の人口を維持するには出生率2.07から2.08人、つまり一人の女性が生涯に2.3人くらい生んでくれないと期待できません。しかし、それは期待できてもありません。

私は、ある宗派の宗務総長さんと議論を交わしたことがあります。総長曰く、「人口が減るということにいくら抗しても限

界がある。それよりも、お寺として出来ることはなんだろうかと、ということをお考えの方が正解かもしれないね。祭祀・儀礼の在りようをどう変えていけばよいか。つまり、葬儀・法要も簡素・簡略になりつつある。檀信徒との関係をどう繋ぎ、どう深めていくか。そうした事柄を真剣に考える時がきた、そんな内容の議論をしました。

多様化したライフスタイル・生活様式に、どのように合わせていけばよいか。このことはお寺に限りません。幼稚園・保育園のご家族の家族形態にも言えることでしょう。だとすれば、幼稚園・保育園の運営についても見直すことが必要ではないかと、そう思います。

皆さん、そういう意味では、ひよつとしたら凝り固まった先入観を一度取り外してフレッシュな形でもう一度考え直してみませんか。もちろん、変えればよいというものではありません。お寺なのか、神社なのか。それぞれにあるべき教義や理念、思想といった本質は基本になければなりません。幼稚園なのか、保育園なのか。柱としてあるべき建学の精神に裏打ちされたものでなくてはならないのは当然です。

その上で、神社あるいはお寺ならではの情報発信基地として



の役割を担う幼稚園や保育園に人は集まるものです。ここで、ちよつとしたデータをご紹介します。

■宗教意識・行動について

◆あなたが神社やお寺・教会へ行く理由は？

- ① 初詣やお祭りなどの年中行事があるから(66%)
- ② 先祖や親族を弔うため(64・9%)

以下は、

・何となく利益がありそう、何となく建物や仏像などを見るのが好き(15・1%)

・気持ち引き締まる(12・1%)

・信徒だから(8・1%)以下略

◆どんな状況におかれた時に宗教を信じたいと思いますか？

- ① 病気・健康(48・0%)
- ② 死生観・無常観&分からない(13・7%)
- ③ 生きがい(10%)
- ④ 人間関係の悩み(4・6%)

如何ですか？ こうしたデータなども参考にされながら、組織としての統治・運営計画を策定されるのも一つの方法だと思います。そして、中長期的な運営・管理計画を整えていく。いろいろな事項を客観的に把握・分析することで、先行き不透明な2040年〜50年を見通す手がかりが掴めるかと思えます。

供養形態の変化についてはどう

うでしょうか。

1、直葬の増加している背景身寄りのないお年寄りが仕方なく、というケースが多かったが、最近は葬儀・法要そのものを見直す動きが出ている。

- ① 本人からの要望
- ② コスト(葬儀代全額平均231万円/直葬20〜30万円)

【例】直葬プラン12万円、永代供養15万円、パッケージプラン25万円

(注)今まで葬儀・法要の意義を伝えてこなかったツケが回ってきている。根本には、「死」への向き合い方の変化、寺院と檀信徒・門徒との関係変化がある。

2、ネット供養
クリック一つで住職が現れる…灯明、供花・供物などすべてマウス操作で可能である。画面中央に仏壇あるいは墓標が表示され、読経、供物や花を供えるボタンがある。

3、ネット墓地

◎お墓、納骨堂を持たながら、自宅から参拜できるシステム

◎中央の映像により故人のお墓が現れる。

・BGMと共に心静かにお参りください。

・故人の思い出の写真もご覧いただけます。

・故人へのメッセージ(記録)も出来ます。(以下略)

まあ、こんな具合です。皆さま

んにはお付き合ひのある仏具さんとか墓石屋さんがおありだと思いますので、お勧めするのではありませんが、埼玉の神社庁

では面白いことやってみてね。「デザイン神棚コンテンツ」という行事が毎年行われているのです。注連縄(しめなわ)や社(やしろ)のイメージではなく、最近のマンション・家屋にあつたライフスタイル、つまり生活様式に合わせた神棚のデザインでのコンテンツです。「世の中、どんどん生活スタイルが変わっていくのに、そこだけ変わらないのは不都合である」ということのようにです。賛否はともかく、新しい試みであることは事実です。

仏壇も本質を残すためには何が必要かを、少し発想を転換してみるのもいいかも知れません。話が余談に逸れましたが、ネット供養やネット墓地という現実もあることを踏まえて「これから考える」のも、ヒントに繋がるかもしれません。ともあれ、「お寺はこうあるべき」という既成概念から一度は離れてみることを呈します。不快感を持たれる方もおられるでしょうが、本質は絶対に変わるわけではないのですから。

塚崎先生はここまで話されて、小憩のあと後半に移りました。

後半は「寺院のマーケティング」を中心に話を進められました。簡略にお伝えします。

■宗教法人運営上のベースとなる「人」へのアプローチ戦略について

寺のコンセプトを明確にし、教義・理念・思想・哲学を継承・発信していくことで衆生の幸福に資すること。(対象の選定、檀信徒、門徒、信者の信仰度レベル別に)。

・ホームページの充実。デザイン、内容は極力シンプルに、基本を分かり易い言葉で説明し、写真や動画を多く使用。足を運んでいただくにはどうすればよいか。

・季節感、そこから展開する、リンクページ、携帯サイトへの展開、アプリ。

「関連施設、資産、コンテンツ」等の活かし方。

・他媒体の活用：…プランニングの確立。

・テレビ番組とのコラボ、雑誌特集、書籍の発行。

・体験、講演会

・写経、写仏、講座、催事の見直し、写経会、座禅会、体験修行など。

・頒布品(お守り、お札など)

・女性ターゲットの頒布品の企画、女性向けお守り、絵馬、子どもターゲットの人生儀礼、

行事。

一般向け(季節により、変化する「おみくじ」の色)木霊お守りなど。

・境内地内の対応
僧侶・職員の対応、施設の充実(トイレ、休憩所)頒布品・お土産物売り場、解説できる

・仕組み(特に若い女性は知的欲求心が旺盛)

・活動の柱として
宗教的基盤：…いのり・いやし(定例行事、お葬式、宗教的環境サービス)

・精神的基盤：…あんしん(相談、コミュニケーション、ケアタウン、永代供養)

・経済基盤：…とうめい、しんらい(経理公開、資産公開、護持基金)

・人的基盤：…つながり(スタッフ、ボランティア、人脈)など。

最後に、「皆さんが接しておられるお寺・幼稚園・保育園という施設が、人口減や制度の変容などに左右されず、動ぜず、その本分を進めて行くために何が必要か、を考えるきっかけになれば嬉しく思います。また、こうしてご縁を頂戴しましたので、何かありましたら何なりとお申し付けください。出来る限りのお手伝いをさせていただきます」と、90分余のお話を締め括られました。



「仏教保育功労賞」三先生が受賞

仏教保育実践の功労者を対象とした「仏教保育功労賞」は、今年も懇親会の席上において緑谷理事長より、次の三先生に贈られました。謹んでお祝い申し上げます。

■日野昭文先生（松尾幼稚園副園長／京都）



昭和44年、関西大学経済学部卒業。同年4月、松尾幼稚園に就職。以来、仏教保育者として幼児の指導に尽力。平成19年5月（社）日本仏教保育協会（現公社）副理事長に就任。協会の振興に尽され、昨夏の「全国仏教保育京都大会」では大会実行委員長としてその成果は高く評価されました。また、地元京都の私学振興会理事、私立幼稚園連盟監事、浄土真宗本願寺派保育連盟京都教区理事長としても振興に力を注いでいます。

■浦田裕人先生（月かげ保育園園長／京都）



昭和56年、佛敎大学文学部仏敎学専攻卒業。同年4月、浄土宗宗務庁に奉職。平成元年4月より月かげ保育園に勤務、以来仏教を通して幼児の保育に専心。平成19年5月より（社）日本仏教保育協会（現公社）評議員として仏教保育振興に貢献。昨夏の全国仏教保育京都大会では大会実行副委員長として企画・運営に尽力されました。また、平成23年に京都佛敎保育園協会長の任に就かれ、協会の振興・運営に当たられています。

■安井昭雄先生（光明幼稚園名誉園長／東京都）



芝中学校・高等学校を経て、大正大学大学院に進み仏敎学を学ぶ。卒業後、先代の後継者として光明幼稚園に就職。先代の後を受け園長の就任とともに浄土宗欣浄寺の住職も務め、「ほとけの子」の育成に力を入れる。また、（社）日本仏教保育協会（現公社）においては、仏敎教育研究所所長とし各地の寺社を歴訪され仏敎史を研究し、長年その編纂に力を注いでこられました。その功績は高く評価されています。

事務局日誌

6 / 1	「第4回社員総会」「平成27年度第1回仏教保育研修会」「第10回理事会」（増上寺・光摂殿）
6 / 8	「懇親会」（ザ・プリンスパークタワー東京）
6 / 27	「仏カリ」「仏教保育」編集会議、事務局会議 「関西地区研修会」 （北御堂・本願寺津村別院大ホール）

編集後記

■「カメラ女子」なる言葉ができるほど、大人たちは写真を撮る。保育参観で、行事で、式典で……カメラの中から最高のシーンを覗いている。京都で乗ったタクシの運転手さんが「浴衣をレンタルして街を歩き、気に入った場所で写真を撮ったら、急いで着替えて返しに行く人が増えとるらしいですわ」とぼやいた。■写真に残せばいいだけなのだろうか。浴衣の肌触りや下駄の音につつまれて、風情を味わう体験は必要なのだろうか。■子どもたちにはそんな体験こそ大事にして欲しい。そういう中から、智慧や感覚や能力などが身に付いていく。身に付いたものは写真のように目には見えないけれど……。体験の夏を楽しもう。
（五島）

公益社団法人 日本仏教保育協会
〒105-0011東京都港区芝公園4-7-4
ホームページ <http://www.buppo.com/>
電話 03(3431)7475・FAX03(3431)1519
発行人 緑谷一雄 編集人 五島 満
毎月1回1日発行(1部315円)



仏教保育綱領

慈心不殺	生命尊重の保育を行なおう
仏道成就	正しきを見て絶えず進む保育を行なおう
正業精進	よき社会人をつくる保育を行なおう

紙芝居 おしやかさま 全4巻

○おたんじょう(12場面) ○四つの門(13場面) ○おさとり(16場面) ○ねはん(12場面)

セット定価 本体¥20,000(8%税込¥21,600) ※分売不可

脚本・絵／諸橋精光 画面38.2×26.5cm 豪華化粧箱入り

保育現場や布教活動の場で幅広くご利用いただけるよう、おしやかさまのご生涯を4巻に分け、幼い子どもでも集中力を保てる適度な場面数で仕立てました。



ご注文
お問い合わせ
すずき出版